

安保法制違憲訴訟

みやぎの会 ニュース

発行：安保法制違憲訴訟みやぎの会

No.8 2021年11月15日

〒880-0872 宮崎県宮崎市永楽町182番地6

弁護士法人えいらく法律事務所

TEL:0985-23-1355 FAX:0985-23-1356

<https://anpoikenmiyazaki.jimdo.com/>

anpo.iken.miyazaki@gmail.com

<https://www.facebook.com/>

[/ikensoshomiyazaki/](https://www.facebook.com/ikensoshomiyazaki/)

11月3日出版記念と原告団結成5周年 目の集い開かれる

11月3日（水曜日＝日本国憲法公布の日）は、「私は平和の中で生きたい」出版記念と原告団結成5周年を記念して、会場参加とZOOM参加の併用で、四人の方のリレートークと質疑応答による第11回目の集いが開かれました。

（1）開会挨拶 共同代表 宮下玲子さん

5年前にここ市民プラザで原告団結成集会在開催されてから、何度も集いや勉強会を重ねてきた。その間にも、新田原基地や霧島演習場での訓練、戦闘機の配備など、宮崎だけを見ても平和や安全とは程遠い話題ばかり。コロナ禍で集まれない時期も続いたが、原告それぞれの思いを一人でも多くの人に知ってほしく、陳述書集を出すことになった。「私は平和の中で生きたい」というタイトルは、原告の小牟田ユミコさんが、戦争中に障害を持って生きることがどんなにつらいことかということを書いた陳述書の中にあつた言葉。戦争が、弱い立場にある人をさらに苦しめるということがよくわかる。選挙の結果、現状を支持する人が多いことにため息が出るが、私たちひとりひとりの一票で、野党共闘の結果が目に見える形で現れるということもわかった。今日は日本国憲法が公布された日。75年前に日本国憲法が敗戦後の人々の大きな希望であったことを思いつつ、ため息を大きな深呼吸に変えてこれからも元気を出していきたい。

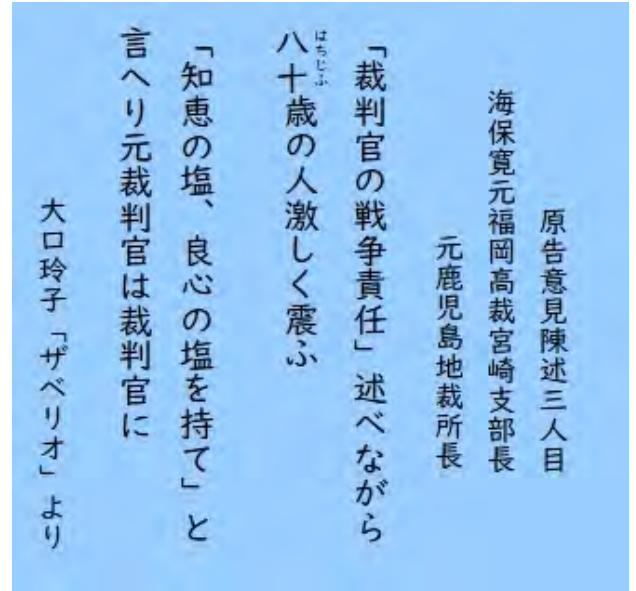


（2）リレートーク

海保寛さん 元裁判官

控訴審でたたく相手は被告ではなく裁判所だとはっきり分かった。一審判決の弱点でもある。

禁じ手の「もぐり改憲」「解釈改憲」に司法がどうという態度をとるのが問われる。



西村礼子さん（ZOOM参加）

元オルタナティブスクール（これまでの学校教育とは違う新しい考え方で運営する学校）スタッフ。

「特定秘密保護法」や「共謀罪」が成立した頃から、社会のあり方に疑問や不安を持ち始めた。

二人の子どもを育てるなかで、道徳が教科になるなど、学校教育のあり方についてもいろいろ考えることがあり、オルタナティブスクールを運営したり、移住して自給自足の生活を目指したりするようになった。



教育、学校は子どもたちとその保護者、そして教員に対して非常に大きな影響力を持っていると思う。安保法制違憲訴訟については、原告となったが、もうがんばっても無駄なのではないかと感じることもあった。しかしやはり反対を続けていかなければ

ばならないと思い、控訴審にも原告として加わることにした。今の社会にあって、ただ息をしているだけという生き方ではなく、日々いきいきと充実して生きていきたい。

高田慎吾さん
(ZOOM 参加)
医師

戦争中に竹槍や特攻で勝てると言っていたのと同じように、コロナ禍において、政府が非科学的なことを言ったりやったりしていると感じる。軍事・自衛隊に対する抵抗感を失わせる動きが様々あふ

れている。航空ショー、迷彩服柄、自衛隊員のバラエティー番組出演など。戦争はある日いきなり戦争になるのではない。国民精神の動員は既に始まっていると思う。体育の授業での銃剣道の復活など、学校で平和主義が貫かれておらず、戦争準備が着々と進んでいると感じる。コロナウイルスは、三密対策とワクチンでは防ぎきれず、今は無症状の人がウイルスをばらまいている状態。

南邦和さん 詩人

この書籍は、単なる書評でいう「労作」と言う言葉では語り尽くせない。日本の近現代史をそれぞれがどう受け止めたかが明確に示されている。より広く読んでもらいたい。

今日(11月3日)は、「文化の日」ということばかり言われているが、憲法公布75周年で本来ならどの新聞も一面にそのことをのせるべきではないか。朝鮮半島に生まれた昭和ひと桁世代の私は、教育によって、軍国少年が一夜にして民主少年にならなければならないという体験を味わった。

終戦後、短い期間、中学1年生の社会科の教科書だった『あたらしい憲法のはなし』には、「この前文というものは、二つのはたらきをするのです。その一つは、みなさんが憲法をよんで、その意味を知ろうとするときに、手びきになることです。つまりこんどの憲法は、この前



文に記されたような考えからできたものですから、前文にある考えと、ちがったふうに考えてはならないということです。もう一つのはたらきは、これからさき、この憲法をかえるときに、この前文に記された考え方と、ちがうようなかえかたをしてはならないということです。」と書かれていることを今あらためて再考すべき。

ポケット版の『日本国憲法』(メディアパル)にはポツダム宣言と大日本帝国憲法もおさめられている。私はこれをいつも携帯して時々読んでいる。

2004年に九条の会ができ、翌年に宮崎九条の会ができたときには、多くの人が熱い思いで集まり、盛り上がっていたが、今はすっかり落ち着いてしまった。

私がこれまで詩を描き続けてきた源泉は、怒り。今の若者にも、まず怒りを持ち続けてほしい。

(3) 質疑・意見

瀬口さん

この本を出版することも、訴訟でも、若い人達に我々の経験や思い、願いを引き継ぐかが大切だ。毎回法廷でみる若手弁護士の姿をみると弁護士の世界では確かに引き継がれているのだろうと思う。我々が、(自分の持ち場、足元で)若者にこれを伝える努力をどれだけしているか、問われると思う。

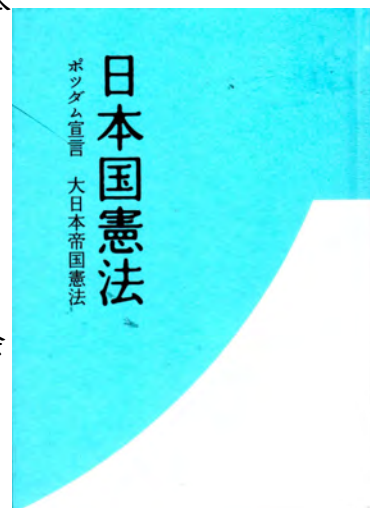
つしまさん

私はこういう場に今日初めて参加した。憲法を読んだこともなかった。とても有意義だったと思うので、憲法を学ぶ機会を増やしてはどうか。WEBなどで企画してはどうか。

峰さん

憲法については結構色んなところで勉強会なども企画されているが、もっと積極的に知らせることが大事かも知れない。

馬場園さん



今日は私宛の完全護憲の会の方の感想を紹介してもらってありがたい。こういう書籍が出版でき、語りあう機会をもてたことがよかった。

宮下さん

今日色々な方々のはなし、特にママの会の方のはなしを聞いて、教育が本当に重要だと感じた。教育がどんどん歪められていっていると感じる。憲法教育を含め教育について考える場をもっと持ちたい。

(4) 弁護団事務局からのお知らせ
松田幸子

末尾に紹介

(5) 閉会挨拶
共同代表 樋口のり子

コロナ禍でも、オンラインを駆使して出版記念の会と、控訴審に向けての有意義な時間を持つことができましたことをありがたく感謝しています。

先日の総選挙では、3区で当選した自民党の古川氏が、インタ

ビューで「東アジアの緊迫した状況に皆さんと共に防衛を強化していかなければなりません」(!)と発言していました。沖縄、鹿児島、離島の次は串間市を軍事基地にするのではないかと心配しています。国が戦争をすると決めても、各自治体で押し返す意気込みでがんばりましょう。

全国から事務局や執筆者に寄せられたお礼やコメント、感想

斉藤道俊さんから(道東弁護団)

いつもお世話になっています。

本日、「私は平和の中で生きたい」が届きました。

これは凄いです!



こういうものが残せるということだけでもこの裁判を行った甲斐が十二分にあったことになる!と確信させていただきました。ありがとうございます。じっくり読ませていただきます。私たちも作りたいです!

高崎さんから(札幌弁護団)

本日、「私は平和の中で生きたい」を手にすることができました。素晴らしい著作物で、北海道でも検討していた企画でした。立派な本が先に出版され、それを超えるものという一段と高いハードルができましたが、安保法制廃止という目的のために小さなところの比較ではなく、大きな視点で、北海道でも真似をして出版したいと思っています。遅くなりましたが、贈呈いただきありがとうございます。裁判が続きますので、引き続き頑張ってください。

杉浦ひとみさんから(東京弁護団)

「私は平和の中で生きたい」をお送りいただきありがとうございます。

内容についての皆さんのご感想はその通りで繰り返すまでもありませんが、私は目次の見出しの付け方・纏め方がとてもいいと思いました。

大きな視点で原告の被害を捉えられる助けになると思えました。ありがとうございました。



志田陽子先生から(武蔵野美術大学)

松田先生 cc皆様

ご高著「私は平和の中で生きたい」、ご恵投いただき、ありがとうございます。昨夜、自宅で受け取りました。原告 279 人の声の詰まったご本、読み進めな

から、身の引き締まる思いです。私の場合には、内容のすばらしさに感服するだけではすまず、これをもとにして、宮崎の先生方と、一大作業をさせていただくこととなりますので、まさに身の引き締まる思いを感じています…。宮崎弁護団のZoom勉強会までに、読ませていただき、人格権の問題として抽出できるところを探っていきたいと思います。引き続き、よろしくお願いたします。

北澤さんから(埼玉弁護団)

安保法制違憲訴訟みやざきの会・企画編集の「私は平和の中で生きたい」をいただき、ありがたく、心から感謝します。103名の力作、圧倒されます。それぞれの人格からほとばしる言葉、重いものを感じます。

やはり、インテリが多いですね。さいたま訴訟でも、同じで、大・高・中・小・養護学校等の先生経験者と現役の方が相当含まれています。それと苦労人が多いように感じています。陳述書を書いた総数は104人ですが、弁護士がもう少し働きかければ、もっと作成されたと思っています。

さいたま訴訟には現役の弁護士は入っていません。それから、原告方の裁判官に対する期待が大きいと感じました。それを踏みにじった裁判官は、本当に「罪」だと思えます。

これまでに下された判決を読んで感じることは、裁判官が原告らの陳述書をおそらく読んでいないのではないかということです。門前払いと決めてかかっているとしか思えません。とにかく、当事者の声を聴いて、弁護士は頑張らなければならないと思います。本当に、元気をいただきました。感謝します。

寺井一弘さんから

(弁護士・全国ネットワーク代表)

寺井です。本日只今、「私は平和の中で生きたい」を完読させていただきました。皆様の真剣で切実な思いがこもった素晴らしい書籍でした。そして、女の会の原告の皆様による「VOICE」に次いで、これからもこの違憲訴訟の意義をしっかり噛み締めて頑張

らなければならないとの大きな励ましと勇気をいただきました。厳しい状況に置かれている違憲訴訟ですが、これからこそが正念場と位置付けて頑張ってください。本当にありがとうございます。

私は安保法制違憲訴訟の相次ぐ原告敗訴と長引くコロナ禍によって鬱陶しい日々を余儀なくされていましたが、先月の末と一週間前に刊行された2冊の大作を完読しまして大きな感銘と勇気をいただきました。一冊目は宮崎県の仲間による「私は平和の中で生きたい」です。皆様方からも「大変感動した」とのご感想が届いていますが、本日は東北大学名誉教授の小田中

聡樹先生からお手紙を頂戴しました。

ご本人のご了解を得てその一部をご紹介します。

『私は平和の中で生きたい』を拝読しました。全編に漲

る苛烈な戦争体験、深い平和希望の念、鋭利な安保法制批判に心を打たれました。そして平和はこうして語り継がれることによって継受され、現実を動かしていくのだと強く感じました」

ご承知の通り小田中先生は刑法、刑事訴訟法の大家で、法社会学にも造詣が深く、私は若い時からさまざまな教をいただきましたが、日弁連の西欧諸国(英、仏、独)の司法制度を視察した際には留学先のドイツで大変お世話になりました。安保法制違憲訴訟についても当初から支援くださり、様々なご指導を得て参りました。



私自身も満州から命懸けて私を故郷の長崎に連れ帰ってくれた亡き母の思いを胸に秘めてこの違憲訴訟を闘ってきましたが、この宮崎の書籍を涙なしには読めませんでした。

小田中先生のご意見はまさに私どもの闘いの真髓をご指摘いただいていると考えております。

安保法制を憲法違反とするこの訴訟を皆様と一緒に闘ってきて本当に良かったと思っております。

宮崎の松田先生、前田先生、大きな元気をいただくことができました。まことにありがとうございます。二冊目の小林武教授の「平和的生存権の展開」の書籍も読了させていただきましたが、多くのことを学ぶことができました。

この書籍についてもいずれ皆様と真剣に意見交換できたらと思っております。よろしく願いいたします。夜分失礼いたしました。

内山新吾さんから(山口弁護団)

宮崎の原告意見陳述書集、届きました。読むのは、これからなので、本文以外の感想ですが・・・装丁がきれい。本のタイトルがいい。項目ごとのタイトルがすてき(詩のよう)。1つ1つのタイトルも。短歌も。ボリュームがあるのに、きめ細かい。あえて言えば、これから同じような本を作ろうとするところにとっては、ハードルが高くなったかもしれません。追って注文します。

福田玲三さんから(完全護憲の会共同代表)

馬場園孝次様

先ごろは『私は平和の中で生きたい(声をあげた279人)』をご恵送いただき有難うございました。早速、馬場園さんの「たやすくは屈しません」と元裁判官・海保寛氏の「平和と人権の大切さ」を読み感銘を受けておりましたが、この度、年代別に5章に分けられた第1章戦前を、同世代の共感をもって読みはじめ、当時の生々しい体験に魅せられ、平和への願いに強く惹かれました。

さらに続いて、戦中世代、戦後世代1,2,3を拝読し、それぞれに生々しい体験と熱い平和への思いに驚きました。

宮崎県下の安保法制に反対する原告279名の陳述書をまとめた本書は、草の根民主主義の力強さを象徴しており、すべての世代の生の息吹きを伝える貴重な資料として、大きな意義をもつものと思います。今後ともこの運動を維持し、発展させていただくように願っています。

お礼を申し上げるのが1カ月ほど遅れてごめんなさい。いっそうのご健筆を願っています。

2021年9月28日

宮崎の会からのお願とお知らせ

全国100万人賛同者運動が始まりました!

もう署名はお済でしょうか。

この署名は安保法制違憲訴訟を審理している各地の裁判所あてに、違憲判決を求めて、全国からの賛同者名簿を提出するものです。(全国分が各裁判所に送付されます。)

安保法制は一見明白に憲法九条に違反し、戦争への危険を高めるものです。これを廃止するためには、暴走する政府や国会に対して、裁判所が歯止めをかけることが重要です。これは、主権者である国民が司法に本来の役割をはたさせる運動です。署名がお済の方は、さらに周りの方に勧めてください。

2021年12月15日(水)午後3時~

控訴審第1回期日が行われます。

当日の予定

13:00 ~ 建友有会館で事前集会

15:00 ~ 裁判期日

裁判の中でDVDを上映する予定です
期日前に傍聴券配布の可能性あり

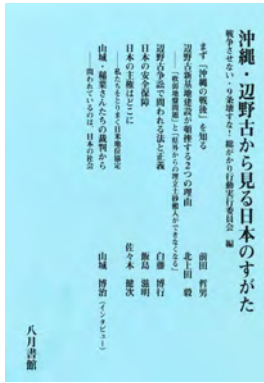
終了後、建友会館にて報告集会

報告集会でもDVDの上映を考えています



安保法制違憲訴訟みやぎの会 取り扱い書籍

赤字は割引価格です。事務局までお問合せ下さい。 0985-23-1355



『沖縄・辺野古から見る日本のすがた』

戦争させない・9条壊すな！
総がかり行動実行委員会 編
八月書館 **300 円**



『平和憲法の破壊は許さない』

寺井一弘・伊藤真・小西洋之 著
日本評論社 **300 円**



『自衛隊の変貌と平和憲法』

飯島滋明・前田哲男・清末愛砂・
寺井一弘 編著
現代人文社 **1000 円**



『僕たちの国の自衛隊に21の質問』

半田 滋 著 講談社
1000 円 残部 1 部



『零戦パイロットからの遺言』

半田 滋 著 講談社
1000 円 残部 3 部



『安保法制違憲訴訟』

寺井一弘・伊藤真 編著
日本評論社 **500 円**



『私たちは戦争を許さない』

安保法制違憲訴訟全国ネットワーク
300 円



『私は平和の中で生きたい』

安保法制違憲訴訟みやぎの会
2090 円

大幅値引きしました！ 既にお持ちの方も、お知り合いへのプレゼント用に！